

地域金融機関への 高橋昌裕からのYELL

エール

VOL.
46

手形貸付の残高が減っている

貸出金の科目別残高を見てみた

Vol.43「『企業アンケート調査の結果』を見て考えたこと」では、コロナをきっかけとして、銀行と企業、特に債務者区分の低い先との接点が増えたようだと書きました。あわせて、ゼロゼロ融資を、既存のメインバンク「以外」が対応したケースも少なくないようなので、誰が責任をもって企業サポートをしていくのか、サポートの譲り合い（逃げ合い）が起こらないかが心配、ともコメントしました。

今号では、2020年度末の貸出金の科目別残高の実績をもとに、ゼロゼロ融資で何が起こったか、および今後の企業サポートで起こり得ることについて、見ていきます。

手形貸付の残高は対前年84%

前提として、ゼロゼロ融資を必要とする企業に、スピーディーにお金を届けられたのは、使命感に燃えて活動をした全国の地域金融機関のおかげであることは間違いありません。自らの感染リスクもあるなかで、頭が下がります。

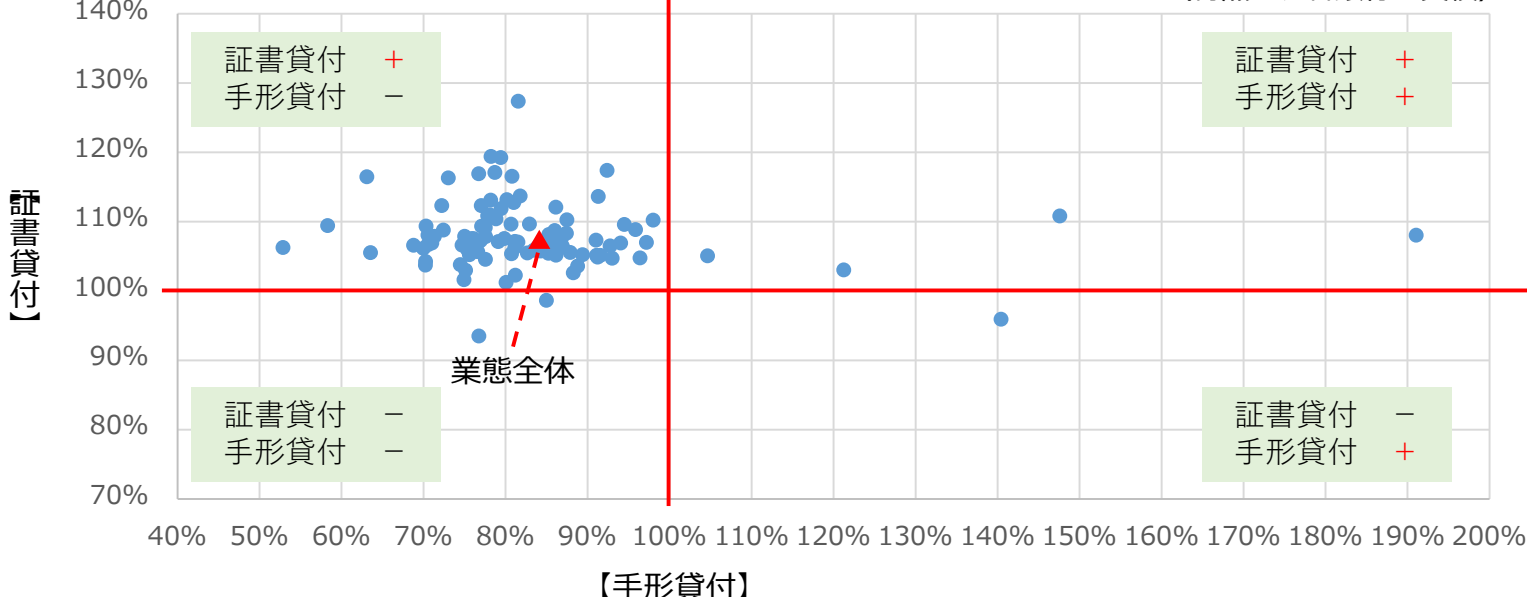
そのうえで、2020年度末の地銀・第二地銀の貸出残高（前年比）を見てみます（グラフ参照）。

業態全体では、証書貸付は対前年107%、手形貸付は84%でした。

証貸が増えたのは、ゼロゼロ融資の寄与分が大きいと理解できます。他方で、手貸は思ったよりも減っていて、残高を伸ばしたのは5行しかありませんでした。

2020年度末（2021年3月） 地銀・第二地銀*の貸出残高の前年比

（青点は、各銀行の実績）



*2020年度中の合併行は含まず

（データ出所：全国銀行財務諸表分析）

ゼロゼロ融資で既存融資を返済

各方面から聞いた話だと、ゼロゼロ融資を受けた企業の一部に対して、ゼロゼロ融資を原資とした既存融資の返済を、銀行が促したケースもあったようです。

借入をしている企業からすると、「利子負担がなくなり、返済も一時ストップとなる」との説明は、提案を受け入れるには十分な魅力があります。

銀行側も、自行の既存プロパー融資がゼロゼロ融資に置き換わると、リスクの転嫁になります。また、他行の既存融資を返済させられれば、リスク量を増やさずにシェアの大幅UPも成し得ます。

一見すると、ゼロゼロ融資での既存融資の返済は、双方にメリットがあったとも言えそうです。

銀行によるサポートの質・量の低下を懸念

しかし、企業側のメリットは本当でしょうか。

返済された既存融資は、貸出残高の実績から見ると、証貸だけでなく手貸も含まれていたと推察します。なかには、各行が近年の活動で積み上げてきた短期継続融資もあったはずです。

危惧するのは、双方の信頼のもとでおこなわれた短期継続融資が、安易にゼロゼロ融資に置き換えられたことで起こり得る悪影響です。

わかりやすいのは、企業の返済負担の増大です。据え置き期間が終われば、元本分の返済も始まるわけですから、短期継続融資の時よりも返済に苦しむ企業が増えるのは、自明と言えます。

そして、それ以上に危惧することがあります。銀行と企業とのコミュニケーションの減少、銀行によるサポートの質・量の低下です。

数年前に「再度、短期継続融資の積極活用を」となった時を思い返します。推奨された背景には、「資金繰りの改善メリット」だけでなく、「銀行が定期的に融資先企業を訪問し、実態把握を含め経営者と密なコミュニケーションをする必然性が生じるから」というのもありました。

企業としては、コロナ禍における事業の立て直しや、返済対応・財務面の強化など、銀行に相談したいことは増えます。しかし、短期継続融資がゼロゼロ融資に置き換わった先は、銀行として定期的なコミュニケーションの必然性が薄れていて、サポートの質・量が低下することはあり得ます。

「矜持」に期待

この危惧が、杞憂に終わることを願っています。自行であろうと、他行のものでであろうと、ゼロゼロ融資を使って短期継続融資の返済につながたならば、企業経営者とのコミュニケーションを意識して深め、寄り添ってください。地域金融機関の行職員としての、皆様の矜持を信じています。

コロナの影響は、まだ続くでしょう。困難もあるでしょうが、一連の対応を通じ、銀行と企業との関係が強固なものになることを望んでいます。

以上、高橋昌裕からのYELLでした。

弊社HPでもご覧いただけます

弊社ホームページでは、Vol.1からすべてのニュースレターの閲覧・PDF版のダウンロードができます。
(https://braveyell.co.jp/news_letter)
また、不定期発行のため「更新のお知らせ」をメールでお受け取りいただくことも可能です。ぜひ、ホームページよりご登録ください。

【発行・文責】

BRAVEYELL株式会社 (ブレイブエール)

代表取締役 高橋 昌裕

住 所：〒104-0061 東京都中央区銀座6-6-1
銀座風月堂ビル5階

メール： takahashi@braveyell.co.jp

電 話： 03 (6271) 9147

業務内容：

- ・ 経営コンサルティング
- ・ エグゼクティブ・パートナー
- ・ 研修、ワークショップ、講演

著書：

- ・ 「ザ・地銀」
- ・ 「実践！『現場営業力』強化セミナー」
- ・ 「ゴールベース法人取引」